

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0291000016		
法人名	社会福祉法人 三笠苑		
事業所名	グループホーム サンライフ碓ヶ関		
所在地	青森県平川市碓ヶ関鯨森90-1		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和3年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境の中、広い敷地は夏は農園や花壇、日課の苑庭散歩やその他色々な行事等、多目的に使用することができます。また、併設のデイサービスセンターや児童館との交流も積極的に行っています。地域に根ざした施設として地域の諸行事にも参加し、住民との交流に努めています。ただし、現在はコロナ禍のため、交流やふれあいがあまりできていません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人には訪問看護ステーションもあり、協力医療機関との連携により、重度化や看取りの対応も行っており、利用者が最期まで安心して生活できる体制となっている。
ホームの職員は地域の方も多く、利用者やその家族とも顔馴染みの関係で、和気あいあいとした雰囲気である。
隣接するこども園やデイサービスとの交流もあり、コロナ禍前は園児の訪問等もあり、利用者からも大変喜ばれていた。今後も新型コロナウイルスの状況を踏まえた上で、地域行事への参加やホームで開催していた地域サロンの再開等も予定しており、地域と共にあるグループホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が共同で事業所理念を作り、毎朝の申し送り時に唱和して共有し、実践に取り組んでいる。	ホーム設立時に全職員で作成した独自の理念があり、毎日の申し送り時に唱和し、理解を深めている。職員は日々理念を意識し、サービス提供場面に反映させるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社会福祉協議会で開催される地域の会議に参加したり、サロンを開催して地域住民に来てもらう等、交流をしている。現在はコロナ禍のため、いろいろと制限されている。	コロナ禍前は法人が運営する保育園の訪問のほか、ホームで開催していた地域サロン等で日頃から地域住民と交流を行っていた。今後は感染状況を踏まえ、再開を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に向けてサロンを開催し、認知症の人や支援方法について理解を深めてもらえるようにしている。しかし現在はコロナ禍のため、開催できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催して状況を報告し、情報交換を行っており、意見を職員に周知してサービスに活かすようにしている。現在は書面協議にて行っている。	コロナ禍前は運営推進会議を2ヶ月に1回開催していたが、現在は書面によりホームの運営状況等の報告を行っている。ホームではメンバーからの様々な意見を、今後のサービス向上に活かすように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初めに入居者リストをFAXにて報告している。また、何かあった時やわからない事があった場合はすぐに連絡し、相談している。	市担当課職員が運営推進会議に参加しており、ホームの運営等に関して様々な意見をいただいている。また、普段からコロナウイルス関連で都度相談もしており、利用者の課題解決に向けて日頃から連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や学習会を通じて理解し、身体拘束をしないケアを実践している。しかし、家族の要望で、安全のため同意を得て臥床時落下しないように対応している。	職員はマニュアルや勉強会等を通じて、身体拘束の内容やその弊害を理解しており、身体拘束はしないという方針で日々のケアに努めている。また、日頃から運営推進会議のメンバー等に声を掛け、無断外出があった場合に備えた体制整備に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会や研修会を通じて虐待防止の理解を深めている。また、職員間で情報を共有しながら、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会を通じて理解し、必要時には関係者と相談しながら、いつでも活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と運営規程を説明し、同意していただいた上で署名と捺印をいただき、一部を保管している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているほか、面会時や電話で相談を受け付けている。家族アンケートの実施を通じて要望や意見を伺い、職員間で話し合い、改善や実践に反映させている。	職員は日々のケアの中で、利用者の意見等を察するように努めている。また、運営推進会議には家族代表も参加しているほか、第三者委員も設置しており、家族等が意見を外部に話せる体制となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回、法人から職員へ個人調書が配布され、法人や事業所への要望や意見を記入しており、職員の意見を聞く機会を設け、反映されている。	年1回の管理者との面談のほか、法人本部へ意見や要望を文書で提出する機会を設けている。また、普段から運営等について、職員が意見を言える環境であり、より良いサービス提供に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や資格取得、個々の努力、実績を把握し、就業規則や給与規程に基づいて整備して、職員がやりがいと向上心を持てる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の年間研修計画を作成し、職員の要望を聞きながら公平に受講できるようにしており、資質向上に努めている。また、資格取得に向けて助成金制度を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修への参加のほか、社会福祉協議会や他事業所とのネットワークを作り、情報交換を通してサービス向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の段階から施設見学や本人と面会する機会を設け、不安や要望を聞く等、コミュニケーションを図りながら信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望、不安に思っている事を聞き、連絡や報告を密に行い、家族が安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と十分に話し合い、必要としているサービスを検討して、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でできる事を見つけ、自立支援に向けて実践している。また、日々のコミュニケーションで信頼関係を築いていると感じる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事やサロンへの参加や面会を呼び掛けて家族との交流の場を設けており、家族の意見を反映させながら、理解と協力をしている。しかし、現在はコロナ禍のため、行事やサロンの参加は実施していない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店や理・美容室を入居後も継続して利用したり、友人や知人の面会や外出も気軽にできるように支援している。	日頃の関わりの中で、利用者の馴染みの人や場所を把握するように努めている。利用者の中には隣接するデイサービスを利用していた方もおり、コロナ禍前はデイサービス利用者とも交流する等、これまでの馴染みの関係を継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わりを持てるように交流の場を設けている。職員が間に入り、コミュニケーションが円滑にできるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもいつでも相談に応じられることを伝え、これまでの関係性を継続し、その後の相談や支援に繋がられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの話を傾聴し、日常会話から本人の思いや要望を把握できるように努めている。また、生活歴や家族・関係者からの情報を聞き、本人の希望に沿えるように努めている。	職員は日々のケアの中から利用者の視点に立ち、思いや意向を把握するようにしている。また、家族や関係者、担当職員からの情報を基に全職員で検討し、より良いサービス提供ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族とコミュニケーションを図り、生活歴や生活環境の把握に努めている。また、関係者との連絡を密にすることで、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者との日常生活の中で心配りや心配りをし、一人ひとりのできる事や好きな事、一日の過ごし方や現状を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画作成時には本人の意向を詳しく聞き、生活状況や職員の気づきを基に、家族や関係者の意見を反映させながら、現状に即した介護計画を作成している。また、モニタリングを行うことで新たな改善点を見つけている。	可能な限り利用者から意見や要望を聞くように努めており、本人本位の計画を作成している。介護計画は定期的に見直しているほか、身体状況等に変化があった場合はその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や身体の状態等を個別に記録し、いつでも確認できるようにしている。月1回のカンファレンスで職員全員で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況を把握し、その時々ニーズに合わせ、必要なサービスの提供や支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭等の地域行事への参加と見学を行っているほか、地域住民のボランティアも受け入れている。また、地域の消防署や警察とも連携を取り、安全に暮らせるように努めている。ただし、現在はコロナ禍のため、実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望に沿って受診している。受診時には症状の改善に繋がるように詳細な報告を行い、診察を受けている。徐々にではあるが、家族対応で受診している。	これまでの受療状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるようにしているほか、協力医療機関からの往診も受けられるように支援している。また、歯科や眼科等の専門医の受診も含め、利用者が適切に医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の来苑時に、体調の報告や相談をしている。特変時は24時間体制で連絡・相談して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に情報提供を行い、入退院について病院関係者や家族と相談・協力し、支援に努めている。退院時に情報をきちんと確認する必要があると感じたことがある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の在り方について、入居時に重要事項説明書や終末期の看取りの確認書を通じて説明し、かかりつけ医と共に取り組んでいる。	入居時に、終末期における対応や看取りに関する指針について、文書で説明している。利用者や家族の意向を尊重し、希望があれば看取りの対応をできるよう、日頃から協力医療機関や訪問看護との連携を図っており、チームでの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に普通救命講習を受講し、マニュアルを作成して掲示し、すぐに対応できるように実践力を身につけている。定期的には行っておらず、不安を感じる職員もいるため、今後の課題となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震からの火災や夜間想定、土砂災害の避難訓練・消化訓練・通報訓練を行っている。災害時には、近隣の協力員や消防・警察・行政からも協力を得られるように働きかけている。	年2回、夜間や土砂災害も想定した避難訓練を行っている。また、災害発生時に備え、食料や飲料水、ストーブ等も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不快を与えるような言動に注意すると共に、トイレ介助やオムツ交換、着替え時には、自尊心やプライバシーを損ねないように、適切な声掛けや対応を心掛けている。	基本的に利用者は「さん」付けで呼んでおり、常に利用者を尊重して気持ちを受け入れ、言動を否定せず、相手に合わせたケアができるように心掛けている。また、声掛けや対応についてはホーム全体で日々確認し、改善に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で話しやすい雰囲気作りを心掛け、思いや希望を察知し、入居者本位で選択・自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課はあるが無理強いはないようにしている。一人ひとりのペースで自由に思いのままに生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き付けの理・美容室の予約・送迎、化粧品や好きな洋服を選んでもらう等、支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下拵え・食器拭き・テーブル拭き等、一人ひとりが役割を持って行っている。献立に苦手な食べ物がある場合は代替品を提供している。	利用者の希望や好き嫌いを考慮した手作りの料理を提供している。職員は食事の介助や食べこぼしのサポートをしながら、適度に声掛けし、利用者が食事の時間を楽しく過ごせるような雰囲気作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成している。入居者一人ひとりに合わせた食事の形態にし、水分が摂りづらい入居者にはトロミを付けたり、ゼリーにして提供している。食事と水分の摂取量を記録し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態や能力に合わせ、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄ができるよう、見守りや排泄パターンに合わせて誘導を行っている。	職員は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、トイレ誘導等を行っている。また、利用者の意向も確認したうえで、排泄の自立支援に向けた見直しを随時行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝・昼の乳製品やこまめに水分を提供している。また、軽体操や歩行運動を行っているほか、下剤の調整により、定期的に排泄ができるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日と時間は決まっている。一人ひとりの入浴習慣や好みを把握し、入浴剤等で気分を変えていただく等、工夫している。入浴したくない場合は日や時間を改めて入浴してもらっている。	ホームでは週2回入浴できるようにしており、利用者のその日の体調や状況に合わせ、個別で支援している。利用者それぞれの習慣や希望により、同性介助や見守りだけの支援を行う等、意向に沿った柔軟な対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況や希望に応じて、ベッドの位置や高さを変えたり、照明を調整する等、工夫しながら安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を確認し、変更があった場合は連絡ノートで全職員に確実に伝達している。また、服薬を確認し、服薬後の経過と変化に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や本人の要望により、ある程度決まった役割がある。季節の行事やレクリエーションを取り入れながら、好みのドラマやDVDを視聴する等、楽しみながら生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿ってドライブや買い物に出掛ける等、気分転換を図っている。また、家族との外出や外泊の機会を持てるように働きかけている。現在はコロナ禍のため、自粛・制限をしている。	コロナ禍で遠出の外出ができないため、近くのスーパーに出かけたり、近隣へのドライブ等を行い、少しでも利用者の楽しみや気分転換に繋がるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に説明し、預かり証と承諾証を取り交わしている。自身で管理できる入居者は自身で管理し、困難な入居者は施設で管理して、お金を自由に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や家族から電話が来た時には対応している。手紙のやり取りも自由にできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにソファやテーブルを設置し、ゆったりと思い思いに過ごせるようにしている。室内の温度と湿度にも気を配り、季節感のある花や飾り付けを工夫している。	ホームの窓は大きく、天窓から入る日差しも十分あり、明るい雰囲気である。また、ホーム内の温度や湿度を管理し、利用者が快適な環境の中で穏やかに過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	苑庭・ホール・廊下に座る場所があり、自由に寛げるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や小物等、馴染みのある物を持って来てもらい、安心して居心地良く過ごせるように支援している。	可能な限り馴染みの物を持って来ていただくように働きかけており、それぞれ家具や小物等、思い入れのある物の持ち込みがある。また、持ち込みが少ない場合は写真や手作りの作品を飾る等、家庭的で落ち着いた雰囲気のある居室作りを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで対応し、廊下と居室には手すりを設置して、安全確保に努めている。また、各居室にはトイレ・洗面台が設置され、自立した生活ができるように配慮している。		